

線状降水帯って？

台風って？

# 松山地方気象台台長さんに聞いてみた！

夏になると多く発生する線状降水帯や台風。これらの自然災害から身を守るためにはどのような対策をすればよいのでしょうか。本市出身で松山地方気象台の台長を務める高見さんに教えていただきました。



松山地方気象台にある気象観測装置前で撮影

教えてくれた人

本市出身

気象庁 松山地方気象台 台長 高見 佳浩さん

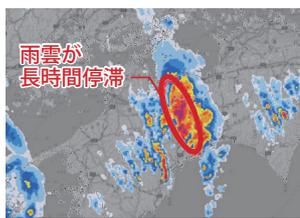
1965年生まれ、豊岡町大町出身。  
豊岡小→三島南中→三島高→愛媛大学法文学部。  
気象庁入庁後、大阪管区気象台や岡山地方気象台、高松地方気象台などで、やまじ風の調査研究や観測・予報業務、防災業務などを担当。  
本年4月から現職。

気象台ってなあに？  
台長はどんな仕事をしているの？

気象台では気象衛星やアメダス、観測船、地震計などから収集したデータをを使って、天気予報や防災情報などをみなさんにお届けしています。また、異常気象の監視や分析、地球温暖化の予測なども大切な仕事です。  
台長である私の仕事の中で、最も大切なのが「地域防災支援の取り組み」です。災害の危険が迫ったときに、自治体が迅速に対応できるように、平時から防災訓練への参画や自主防災リーダーの育成、市町の地域防災計画への助言など、地域の災害対策の基盤づくりを支援しています。また、大きな災害が発生したとき

線状降水帯ってなあに？

線状降水帯とは、次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列を成して、数時間にわたって停滞することで作り出される線状の雨域のことです。線状降水帯が発生すると、大雨による土砂災害や洪水の危険性が急激に高まり、非常に危険です。  
四国中央市は土佐湾からの風の影響で、南北に雨域が延びる傾向があります。昨年8月に発生した線状降水帯も、雨雲が南北に延び、東予地方を中心に記録的な大雨をもたらしました。



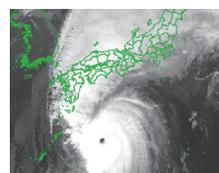
2023年8月10日午前2時、東予地方で線状降水帯が発生しました。気象台は、愛媛県では初となる「顕著な大雨に関する愛媛県気象情報」を発表しました。

台風ってなあに？

台風とは、大雨と強い風（風速が約17m/s以上）をもたらし雲が、ぐるぐると大きな渦を巻いたものです。強風域の

には、現地に気象庁防災対応支援チーム（注）を派遣し、気象の解説をします。

半径により「大型」「超大型」に分けられ、「超大型」の台風になると、日本がすっぽりと覆われます。  
8月は台風の発生数が一番多く、また高気圧や偏西風の影響を受けて西日本に上陸するコースを進む傾向があり、暴風などによる災害が発生する危険性が高まります。また、台風が上陸しなくても、その周辺では線状降水帯が発生しやすくなるため、大雨への警戒が必要です。



▲2017年の台風21号（超大型台風）

私たちができる対策はなあに？

気象台では、台風の進路を5日先まで予想して発表しています。自分がいる地域にいつ台風が到達するのかわかり、風で飛びそうな物の片付けや、雨戸を閉めるなどの対策をしてください。

まずは、自分のいる場所がどんなエリアなのか、ハザードマップなどで確認しましょう。過去の災害記録や身を守るための知識を持つことは、とても大切です。また大雨などの予報が発表されたときには、気象庁のホームページに加え、浸水や洪水などの危険度分布が一目で分かる「キキクル」を活用し、常に最新の気象情報を確認してください。

キキクルは、浸水災害や土砂災害、洪水の危険度分布を確認する便利な地図です！地図上に表示された色が必要警戒を示しています。



気象庁マスコットキャラクターはれるん

